

道徳科の目標は、内面的資質である道徳性を養うことです。授業において、自分との関わりで道徳的価値を捉えられるようにすることで、学んだことが、児童生徒の今後の生き方に生かされるようになっていきます。これまでの経験やその時の感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深められるようにすることが大切です。

【指導事例】 中学校 C- (10) 遵法精神、公德心 主題名「法やきまりを守る大切さ」 教材名「二通の手紙」
 <ねらい> 法やきまりの意義を理解し、秩序と規律のある社会を実現しようとする態度を育てる。

* 道徳科の目標に示されている学習活動に着目し、より効果的に行われるようにするための手段としてのICT活用例

◆道徳的価値について問題意識をもつ

* 実態や問題の提示 (画像や映像、グラフ等)

T: 事前アンケートの結果をグラフにしたものです。
 S1: 全員、規則を守らなければいけないと思っています。
 S2: 規則を守ることは大切だと思うけれど、拘束されているようで、窮屈だなと思う時もあります。
 T: 規則というものについて、考えていきましょう。

導入、展開、終末において、日常生活の中で誰もが経験するようなことや学校での共通体験を想起できるようにすることで、考えを深めさせていくことができます。

◆教材の登場人物を自分に置き換えて考える

* 教材の提示 (画像や映像等)

T: 元さんは、どんな気持ちから、規則を破ってまで二人を入園させたのでしょうか。
 S2: これくらいなら、大丈夫だと思ったからです。
 S1: 姉弟の希望を叶えてあげたかったからだと思います。

◆多面的・多角的に考える

* 自他の考えを提示 (心情スケール等に入力し、表やグラフ等にして示す・共有する)

T: 二通の手紙を見比べて、元さんはどんなことを考えていたのでしょうか。
 S1: 入園させた二人が喜んでいたので、よかった。
 S2: 重大な事故につながったかもしれない。二人の事情もあったかもしれないけれど、規則は守るべきだった。
 S1: そうか、二人を危険にさらしてしまったかも…。規則は厳しいだけだと思ったけれど、意義があるのだな。

対話的な学びを通して、他者の多様な感じ方や考え方と出会い、交流することで、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させていくことができます。

◆道徳的価値の理解を基に自分との関わりで考える

* 実態や問題の提示 (画像や映像、グラフ等)

T: 規則があって、窮屈だと思ったことはありますか。
 S2: あります。自転車の並列走行が禁止されているので、友達と話しながら帰ることができないからです。
 S1: その気持ちは分かるけど、交通ルールがなければどうなってしまうかな…。並列走行をすると自動車や人と接触して、事故やけがをする人が増えると思います。
 S2: 確かに、交通ルールのない社会は危険だな。
 S1: 規則がなければ自由になれると思っていたけれど、規則があるからみんな安心して生活できると思います。

道徳的価値の理解を基に考えを深められるよう、自分の日常の体験を生徒自身が想起しながら思考できるような問い掛けをすることも効果的です。

◆自分の生活を見つめ、振り返りながら考える

* 生活の様子や外部の方の言葉等の提示 (画像や映像等)

* 自分の考えを記録 (ICT端末等に蓄積)

T: 事前アンケートでは、規則を守ることは窮屈だと思っている人もいましたが、今はどう考えていますか。
 S2: 何も考えずに、規則だからと従ってきましたが、規則によって私たちは守られていることを知りました。

生徒がこれまでの生き方を振り返ったり、これからの生き方に希望をもったりすることができるような場と時間をしっかりと確保することが必要です。

「自分との関わりで考えること」を通して、道徳的価値の理解を基に自己理解を深め、道徳性を養う中で自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるようになります。

